流産や死産を経験した女性や

んに名前を

(水曜日)

6月14日

った赤ちゃ

悲しみ共有し

県不妊専門相談センター



ている。 とを提案し 超音波撮影 たりするこ をした写真 などを飾っ つけたり、 流産や死 「不育症

女性や家族向け冊子 究科の中塚幹也教授ら ついても触れ

が監修した。 悲しみを 外来を受診した約8%

や治療法に リスク要因 す不育症の 産を繰り返

(平成29年)

2017年

山陽新聞

ら自分のつらさを我慢 ならない』との思いか 性だけでなく、 『相手を支えなければ

共有することが互いの 直な思いを伝え合い するケースがある。

支えになることを知っ

てほしい」としている。

ジで公開している。

県から同センター

するほか、

ホームペ

県内の産科施設で配布 できること」を作った。

人々が前に進むために あなた・家族・周りの

家族とし

に向けたリーフレ を経験した女性や家族 町)などは、流産や死産

ット

親に)

ましょう」とアドバイ

の三つ折りで約1万部

県不妊専門相談セン

岡山市北区鹿田

う「泣きたいときには、

人で抱え込まないよ

我慢

しなくても大丈 ートナーや

ずに専門医に相談する

れている」と紹介。悩ま が出産に至ると報告さ

よう呼び掛けている。

縦約30歩、

横約63%

岡山大大学院保健学研 運営を委託されている